

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年9月29日(水) 5校時

場 所 2年2組教室

学 級 2年2組(男子16名女子18名計34名)

指導者 黒田 昌江

1 単元名 三 心のきずなをとらえる 「ゼブラ」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、「字のないはがき」(随筆)「ゼブラ」(小説)の2つの作品を読んだ後に、感想を手紙の形式で書いたり、書いた感想を基にして互いの感想を話し合いを通して交流したりすることにより、ものの見方や感じ方を深めるという構成になっている複合単元である。

「字のないはがき」は、筆者が亡くなった父を回想する随筆である。淡々とした語り口と取り上げた父とのエピソードから、戦中・戦後の父の子ども達を案ずる父親の心境がしみじみと伝わってくる作品である。

小説「ゼブラ」は、ウィルスン先生との出会いを通してゼブラの成長が描かれている。外国作品らしく、心理描写よりも状況描写に重きが置かれており、描写に気をつけて読まない、ゼブラの成長をとらえることが難しいのではないかと感じる。

2作品とも特徴のある作品であり、人間の生きる姿や人間関係が巧みに描かれた作品であり、中学2年生という時期にふさわしい教材である。

この2作品に描かれてある人物像を読み進めながら、人と人とのつながりや関わり、生きることについて、個人、グループ、学級全体などでそれぞれが感じたことや考えたことを書いていく。その書くことを、適宜位置付けながら交流し合うことで、生徒はものの見方や感じ方を深めていくことができると考える。

(2) 生徒観

全体的に明るく前向きな生徒が多い。どちらかと言えば受動的であるが、発表するのは男子の方であり、女子はじっくりタイプが多い。「読むこと」に関しては、粗筋をとらえることができる生徒は8割、心理描写や事件の進展に伴う人物の変化の読みが6割程度、暗示表現に隠された意味や主題把握ができる生徒は5割弱である。

「書くこと」については、自分の感じたことや考えたことを素直に表現したり、読んだことを基にして自分と対比しながら表現することができる生徒は、難易度にもよるが7～8割程度はいる。ただ、文章構成を考えて、適格に表現できる生徒は半分弱である。「話すこと・聞くこと」については、聞いて友達の考えの良さを充分理解できない生徒もいるので、自分の考えを明確に話せる生徒も半分ぐらいである。

(3) 指導観

本単元では、「読むこと」の学習を充実しなければ、それ以後の書くことや話し合うことにつながっていかない。そこで、2作品4時間を10時間というように「読むこと」に時間を多く配当した。また、「書く」「話す・聞く」学習は、読みの学習に関連づけて行うよう単元構成した。

つまり、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」が一連のものとして行われるように考えた。

このような単元構成における配慮事項は、以下の通りである。

描写に着目させて、人物の変容をとらえる。

自分の考えを明確にするために、個々の書く活動を大切にす。

個人の考えが確定した後に、グループで話し合うことにより、考えを広げさせる。

3 単元目標及び評価規準

(1) 単元目標

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> 作品の優れた表現を味わい、表現の工夫に注目しながら読む態度を育てる。 自分の考えを書くにあたって、交流で得たほかの人の考えや表現の仕方を自分の表現に役立てようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人の発言を注意深く聞き、自分の考えを確かなものにするともに、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と人とのきずなについて考え、構成に注意して、自分の意見を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文脈の中における言葉や事柄に注意しながら内容をつかみ、人と人とのきずなについて考え、自分の意見をもつことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中における語句の効果的な使い方や象徴的な表現・描写に気づき、内容の理解につなげる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
<ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方や文章の特徴に気づき、表現方法の効果に関心を示している 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の見解を聞きながら、自分のものの見方や考え方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品に描かれている「人物同士の関わり」「心のきずな」について、自分自身の生活に照らし合わせて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物描写や事件に着目しながら、人物の関わり合いや人物の変化を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中における語句の効果的な使い方や象徴的な表現・描写に気づき、人物の変容と関連づけながら捉えている。

4 単元の指導計画と評価規準（10時間扱い）

次	時間	指導計画	評価規準
第一次 読むこと	8時間	<p>「字のないはがき」の音読練習。初発の感想を書く。 難語句調べ。 前半部の内容をまとめる。 後半部の内容をまとめる。 父親の人物像にせまる。 「ゼブラ」の音読。小説読解の要点を確認する。 主人公が変容したかどうかを考える。 ゼブラの変容過程を読み取る。 なぜ主人公が変容したのかをまとめる。 【本時】 全体を通して感じたこと考えたことをまとめる。</p>	<p>周囲に伝わる音声で、すらすら読もうとしている。 根拠をもとに人物像をまとめている。 前半部の内容と後半部の内容から父親の人物像をまとめている。 時を表す言葉を手掛かりに粗筋をとらえている。 どのように主人公が変わったのか、初めと終わりの人物像を比べ、その違いを読み取っている。 ゼブラが受けたウィルスン先生の授業の内容とゼブラの変化を捉えている。 ゼブラがどのように変わっていったのか、事件の進展における人物描写を比較して読み取っている。 ウィルスン先生への手紙とし、心のきずなについて考えている。</p>
第二次 書くこと	1時間	<p>自分の考えを600字程度の感想にする。</p>	<p>2作品を通して得た自分の考えを、他との関わりの視点から、構成を考えて自分と比較しながら書いている。</p>
第三次 話すこと・聞くこと	1時間	<p>グループごとに感想交流をする。 グループ内でどんな感想が出されたか確認する。</p>	<p>自分の考えを明確に話している。 自分の考えと比較して、友達の考えの良さを学ぼうとしている。</p>

5 本時の指導（7 / 10）

(1) 授業の構想

「ゼブラを変えたものは何か」ということについて考え、作品のテーマに迫ることを本時の中心としていきたい。課題解決のためには、第2時・第3時で学習した内容を整理し、さらに、中心語句にも触れながら深めていきたい。また、自力で考えてからグループ学習、そして、全体で話し合いという形で展開し、他の人の意見と自分の意見の相違点を見出しながら解決を図っていきたい。

(2) 目標

ウィルスン先生と出会ってからの変遷をたどりながら、ゼブラを変えた他との関わり、人と人とのつながり、自己を見つめ直すことについて、話し合いを通してまとめることができる。

(3) 展開

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
導入 5分	1 前時の復習	1 前時の学習内容を想起する。 ゼブラはどのように変わっていったのか。		
	2 学習課題の設定	ゼブラを変えたものは何か。		
展開 35分	3 課題追求	3 課題を解決する。 本文（最後の宿題の場面から最後まで）を読み、気持ちが隠されている表現に着目する。 [補助発問] 変わったところはどこか。 課題について個別学習する。 変えたものは何か。 グループ学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7つの授業の中で、どこに変わった描写があるのか見つけ出すように促す。 ・ 黙読 ・ 「左手」「ヘリコプター」に着目するよう促す。 ・ 四人でグループとして確認させる。 ・ 机間巡視をして、つまづいているグループを支援する。 ・ 他のグループの意見をしっかり聞かせ、自分の考えたものと比較させる。 ・ 出ない場合には補助発問をする。 ・ 人物の関係で気づいたことを発表させる。 	<p>A...ゼブラの変容がわかる描写を6ヶ所以上探し、自力で読むことができる。</p> <p>B...ゼブラの変容がわかる描写を3ヶ所以上探し、自力と話し合いで読み解くことができる。</p> <p>C...美術作品を通して変わるゼブラとアンソリアに注目させて読み解かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノート。 ・ 発言。
	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで確認発表する。 ・ 周りを見るようになった ・ 自分をみつめ直すことができた ・ ウィルスン先生とレオンの関係から 		
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウィルスン先生の心に触れあうことができた <p>(次の言葉が意味するものは何か)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左手 ・ ヘリコプター、しま馬が飛んでいる ・ フランクリン通りを歩いてみよう <p>(ウィルスン先生との出会いで得たことは何か)</p>		
終末 10分	4 課題解決 振り返り	4 課題に対する自分なりの答えを書き、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に発表させ、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート
	次時の確認	5 次時の予告をする。 ウィルスン先生に手紙を書き、作品のテーマにせまる。		